

## 編集規定

改訂 2011年12月5日

1. 本誌は日本福祉心理学会の機関誌であり、原則として1年に1巻を発行する。
2. 投稿の資格は、本学会の正会員、学生会員、団体会員に所属する職員に限る。ただし、編集委員会が認めたものはその限りではない。なお、団体会員に所属する職員からの投稿は、投稿時に当該団体会員に所属し、論文の内容が当該団体会員の業務またはそれに関連したものであり、当該団体会員の承認を得たものに限る。
3. 本誌には、福祉心理に関する未公開の和文または英文で書かれた原著論文、資料、展望、研究時評、実践報告、提言などを掲載する。
  - (1) 原著論文は、理論的、実験的、事例的、調査的、または実践的な研究論文で、独創性と理論性があるものとする。
  - (2) 資料は、調査、統計に関するもの、歴史的に価値ある文献資料の紹介、方法論的試論、新しい実験装置や補装具の紹介、内外諸研究の追試検討などとする。
  - (3) 展望は、福祉心理に関係のある課題について、内外の諸研究の成果を取り入れて総合的に概観展望したものとする。
  - (4) 研究時評は、内外諸研究の中から最近の論題を取り上げ、その動向について概観したもので、編集委員会の依頼によるものとする。
  - (5) 実践報告は、福祉等の現場でなされた実践を報告した論文で、実際的な問題の解決過程やその工夫を明らかにし、会員に広く知らせる価値のあるものとする。
  - (6) 提言には、編集委員会が必要と認めた情報等を掲載する。
4. 投稿論文の採択および掲載順は、編集委員会において決定する。掲載にあたり論文の原稿に添削を加えることがあるが、大きな変更を加える場合は、投稿者と相談する。
5. 掲載論文の印刷に要する費用は、原則として本学会の負担とする。ただし、規定枚数を超過したもの、および写真などの製版（カラーを含む）等、印刷に特に費用を要するものは、投稿者の負担とする。
6. 原著論文、資料、展望、研究時評、実践報告の掲載論文については、別刷 30 部を無料進呈し、それを超える部数については有料とする。
7. 投稿論文は返還しない。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は本学会に帰属し、無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
9. 投稿論文の内容について、十分に人権および倫理上の配慮がなされていないなければならない。

## 執筆規定

1. 本規定の対象とする論文 本規定は、和文で書かれた論文を対象とするものであり、英文で書かれた論文の執筆規定については、編集委員会に問い合わせること。
2. 原稿の仕様 原則としてワープロを用い、A4判用紙に25字×32行（800字）で印字された原稿を提出すること。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。本文、文献、図表、要約を全て含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文および展望については10頁、資料、研究時評および実践報告については7頁を上限とする。
3. 提出原稿 原著論文・資料・展望・研究時評・実践報告はいずれもオリジナル1部とコピー2部を添えて提出すること。また、掲載が決定された時点で、テキスト形式で論文内容を記録した電子ファイルを提出すること。
4. 図表など 図表は原則としてエクセルで作成し、印字したものを提出すること。写真を用いる場合は鮮明なものを提出すること。表や図の番号はTable 1、Fig. 1のように記入し、表題、説明とともに一括して別紙に記載すること。また、本文中にその挿入箇所を明示すること。さらに、掲載が決定された時点で、エクセルで作成された図表を記録した電子ファイルを提出すること。
5. 和文要約 原著論文、資料、展望、実践報告の冒頭には、問題、方法、結果、結論の概要をほぼ把握できるように、和文で400字以内の要約と3～5項目の和文キーワードを本文とは別葉にて提出すること。
6. 英文要約 原則として原著論文、資料、展望には、英文表題、200～300ワードの英文要約、3～5項目の英文のKey Wordsを本文とは別葉にて提出すること。
7. 表記 新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いること。外国人名・地名等の固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出の際にだけ原語を付す。文献は論文の最後にアルファベット順に一括して示すこと。雑誌文献記述の形式は、著者名、発行年、題目、雑誌名、巻数、論文所在頁の順とし、単行本文献記述の形式は、著者名、発行年、書名、出版社の順とする。
8. 註 必要がある場合は、本文中に、<sup>1)</sup>のように上付きの通し番号で註を付し、すべての註を本文と文献欄の間に番号順に記載すること。
9. 印刷形式 印刷の体裁は編集委員会に一任する。